



とよかわの

# みつけた!



## 戦争の跡が残る砥鹿神社の石鳥居

国造りの神として信仰される「大己貴命おおなむちのみこと（大国主命）おおくにぬしのみこと」を祭る砥鹿神社は、平安時代の史書にも登場する由緒ある神社で、三河国の筆頭格の神社である一宮として、広く崇敬を受けています。大国様と慕われる大己貴命は、福德の神、国土開拓の神、縁結びの神としてもあがめられ、家運隆盛、交通安全、厄難消除を願って、多くの参拝客が訪れます。

国道 151 号沿いにある西参道の石鳥居は、明神鳥居とよばれる形式で、高さ 7.26 ㍎、柱間 5.5 ㍎の花崗岩製です。もとは旧市田村（現諏訪西町）の姫街道沿いにあったもので、本宮山の山頂にある砥鹿神社奥宮の遥拝所として、天保 13（1842）年に岡崎藩士の長尾興達が建立したものです。昭和 20 年 8 月 7 日の豊川海軍工廠の空襲で被災し、昭和 31 年、修理を機に現在地へ移されました。鳥居をよく見ると、あちこちに欠けたところがありますが、これは空襲の時の被爆痕です。

市内の石鳥居として二番目の大きさであることや、戦争を今に伝えるなどの理由から、今年の 1 月 21 日に市の有形文化財に指定されました。

